

森川 浩子 教授 修士(教育学)

Hiroko Morikawa

✉ hiroko.morikawa@komatsu-u.ac.jp

研究 Keyword

小児看護学、小児慢性疾患、小児救急、糖尿病教育、
アクセプタビリティ

プロフィール

1995年 福井大学大学院 教育学研究科 修了
1999年 福井医科大学 医学部看護学科 講師
2017年 京都大学 医学部研究生
2018年 公立小松大学 保健医療学部看護学科 教授

研究分野

小児看護学、発達心理学

所属学会

日本小児科学会、日本糖尿病学会、日本小児・思春期糖尿病学会、日本糖尿病教育・看護学会、
American Association of Diabetes Educators

専門分野・研究分野

米国の調査では、慢性疾患を持っている子どもは、約30%と言われます。集団健診では、健康問題を抱える子どもは、One of Them (集団における1症例)として精査対象になりますが、家族にとればOnly One (かけがえのない子)です。

「オギャー」と産声をあげた出生児の約6%が、何らかの先天異常をもっています。また出生時に異常がなくても、成長段階(乳児・幼児・学童・思春期)で様々な病気がおこります。その一つである小児1型糖尿病の管理は、インスリンポンプなどの先進治療により、正常に近い血糖制御が得られるようになりました。Start Now to Help Your Child Grow Up Healthy

研究内容

“わかる”から“できる”ようになるギアチェンジ

私が「慢性疾患を持つ人の自己管理(セルフマネジメント)」に興味を持つようになったきっかけは、ある大学病院CCU(Coronary Care Unit)でのダイアログを通じてである。壮年期のビジネスマンが心筋梗塞で入院され、「No Smoking であなたの心臓を守りましょう」と伝えたものの「タバコはやめないよ」と笑っておられる。退院から2週間後、その患者は高速道路で再発作を起こしCCUに搬送された。「心筋梗塞になったので仕事をたたもうとしたとき、タバコだけが楽しみだった。僕のことを心配してくれて、ありがとう…。だけどグッバイだ」その数時間後微笑みながら亡くなられた。

慢性疾患は治療することが困難な病気である。緒方洪庵が適塾で教えられた「常患健康者」のケアに少しでも近づきたいと思った。

糖尿病患者は、知識や技術を習得する(わかる)ことはできても、Daily Living に対応して問題解決する(できる)ことに疲弊してしまう。わが国では、妊娠女性の1割が糖代謝異常を合併しており、“わかる”から“できる”ようになるギアチェンジが求められている。

アクセプタビリティ リサーチ

2019年厚生労働省は「がんゲノム医療」を保険対象に定めた。DNA解析は、個別化医療を推し進め、4P Medicine (Predictive・Preventive・Personalized・Participatory) が世界的潮流である。一方では、英国を中心に、がんや糖尿病など慢性疾患を持つ人々の心理的苦痛やQOL低下が“個人”の問題ではなく、“みんな”の問題であることが調査された。英国では、つらいこと(Distress)を個人で耐えるより、顧客(みんな)の期待を産業界に要望し、期待に合致した商品にお金を支払うことで社会全体を発展させてきた。わが国でも、2025年問題が直前であり、高齢糖尿病患者の要望に向き合ったアクセプタビリティ リサーチが求められている。



子どもが未来を拓く

シーズ・地域連携テーマ例

- 「高齢者糖尿病診療ガイドライン2017」実践応用
- 高齢糖尿病患者のQOL評価と共通する問題
- 消費者目線のライフスタイル介入

論文

- 医療の標準化とアクセプタビリティリサーチ, 森川浩子他, Bio Clinica, 34 (1), 106-110, 2019年1月
- 糖尿病診療の標準化と情報発信, 森川浩子他, Bio Clinica, 33 (13), 1313-1319, 2018年11月
- 糖尿病妊婦の母体とメンタルのケア, 森川浩子, DMアンサンプル, 7 (1), 33-39, 2018年5月

書籍等出版物

- 疾患別関連図BOOK 小児ネフローゼ症候群, 森川浩子, プチナース, 27巻4号 54-55, 2018年3月
- 疾患別関連図BOOK 小児気管支喘息, 森川浩子, プチナース, 27巻4号 26-27, 2018年3月
- 病期・発達段階の視点でみる 疾患別看護過程 小児ネフローゼ症候群, 森川浩子他, プチナース, 26巻8号 2-19, 2017年6月
- 糖尿病女性のピアサポート, 森川浩子他, 難波光義編, 妊娠と糖尿病, 金芳堂, 230-233, 2013年

講演・口頭発表等

- 糖尿病教育の新価値創造 4 Core Goals by Both the 4A and 4P, 森川浩子, 第54回糖尿病学の進歩, シンポジウム(糖尿病療養指導士の役割～療養支援の個別化を目指して～, P196, 2020年3月13~14日)
- 市民公開講座 なるほど! そうだったのか! 65歳からの糖尿病, 森川浩子他, 第35回日本糖尿病合併症学会講演集, p71, 2020年12月7日

競争的資金等の研究課題

- 高齢糖尿病患者のアクセプタビリティを考慮した生活習慣改善の橋渡し研究, 科学研究費補助金(基盤研究C) 2018-2022.
- 国際糖尿病連合と連携した糖尿病ピアサポート組織化とピアリーダー養成に関する研究, 科学研究費補助金(基盤研究C) 2016-2017
- 糖尿病教育ナショナルスタンダードの概念と普及に関する国際共同研究, 日本学術振興会二国間交流事業(アメリカ合衆国との共同研究) 日本側研究代表者, 2008-2010
- 糖尿病自己管理アウトカム指標を用いた糖尿病教育ガイドラインの策定, 科学研究費補助金(基盤研究B) 2006-2007.
- 日本における糖尿病自己管理アウトカム指標の開発, 科学研究費補助金(基盤研究C) 2004-2005.

社会貢献活動

- 福井大学・大学連携リーグ連携研究推進事業「Be 元気 成長期にある思春期世代グロウアップ プロジェクト」研究代表者(2013)
- 日本糖尿病教育・看護学会 専任査読委員(2018・2019・2020・2021・2022)